トビタテ！留学JAPAN　日本代表プログラム　留学状況報告書

※留学状況報告書はExcelデータで提出してください。（ファイル名：留学状況報告書_第●期_学生個人番号_学生氏名.xlsx）

●基本情報

学生個人番号	S14N176010001
氏名(漢字)	小島沙也
氏名(ひらがな)	こじまさや
所属大学等名	宮崎大学
所属学部/研究科/学科	農学研究科
所属学科/専攻/コース	応用生物科学コース
課程(▼で選択)	修士
留学修了時の学年(○年)	2年
期　(○期)	1期
コース　(▼で選択)	理系、複合・融合系人材コース
留学開始日(yyyy/mm/dd)	2015/3/1
留学終了日(yyyy/mm/dd)	2016/2/28

●留学の活動概要と成果

活動概要と成果 **※主要な留学先を2か所記入してください。** **2か所を超える場合は、ページ下部にある「活動概要と成果（予備）に記載してください**	1	国名	イタリア
		都市名	カリアリ
		受入機関名	カリアリ大学
		期間 (yyyy/mm/dd)	2015/3/1～2016/2/28
		活動概要と成果	研究室では、レンティスコ(*Pistacia lentiscus*)の脂肪酸組成分析、アナカルディック酸の分析条件の最適化、食事中脂質溶液に親戚したラットの脳スライスのPPARα遺伝子発現解析を行った。アナカルディック酸についてはHPLCによる分析条件を確立したり、PPARα遺伝子発現を抑制する可能性を明らかにした。また、体内での脂質代謝について専門的な知識を得ることができた。これは今後の、修士論文研究においてオリーブオイル中の脂質が体内に及ぼす影響について考察する際に不可欠な知識となる。オリーブ栽培に関しては農家の方にオリーブ栽培について聞き取り調査を行った。また、オリーブ市場調査も実施した。オリーブの剪定の仕方のノウハウや灌水の仕方と気候の関係、地域ごとの品種について、イタリアで販売されている様々なオリーブ製品について知ることができた。宮崎や九州各地で開催されるオリーブ栽培に関する研究会やセミナーなどで報告し、九州のオリーブ栽培方法確立に貢献したい。イタリア語は週２回のレッスンと自学自習を続け、少しだが日常会話をイタリア語でするようになった。また、イタリア語の文法や単語などの知識を得たことはもちろん、下手でもイタリア語で話すことで新しい人脈ができた。
	2	国名	
		都市名	
		受入機関名	
		期間 (yyyy/mm/dd)	
		活動概要と成果	

日本発信プロジェクト **活動概要と成果** **※事前課題P22と研修で検討した内容をもとに記載してください**	活動タイトル (30文字以内)	日本の夏祭り！
	実行したこと	日常生活の中では、友人や研究室のメンバーにイタリアの食材で作れる和食を作ったり、一緒に折り紙に挑戦した。また、イタリアと日本の文化や歴史、習慣を比較するような話や日本のアニメの話をすることが多かった。 イベントとしては、現地に住む日本人の方と一緒に日本の夏祭りを開催した。お好み焼きや焼き鳥、どら焼きなどの日本食を作って振る舞ったり、折り紙の展示、竹とんぼやけん玉など日本の昔ながらの遊びにみんなで挑戦したり、輪投げやアニマルすくい、ヨーヨー釣りなどの出店を出した。最後は来てくれた子どもたちを対象にしてスイカ割りを行った。
	成果・ 気づいたこと	和食や折り紙は毎回「おいしい」「楽しい」と言ってもらえるのでやりがいがあった。ホームパーティーで和食を作ったり、折り紙をしたりとみんなで一緒に何かに取り組むことで一気に距離が縮まった。日本のアニメは幅広い世代の人に知られていて、特に若い人はアニメ好きが多かった。夏祭りに来てくれた人たちは年配の方から小さな子まで、日本好きな人から日本について何も知らない友達まで様々だったが、みんな日本食を美味しいと言ってくれたり、折り紙の美しさに感動してくれた。特に人気だったのはけん玉でみんなで輪になって挑戦する姿がよく見られた。また、そこで知り合った方達と日本やイタリアの歴史や文化について話すことで新しい知識や考えを得られた。日本から離れて初めて日本についてよく考えたり勉強したりするようになり、日本の良いとこや悪いとこ、不思議なとこなどを見つけられた。
留学中および帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと **※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください** **※具体的な経験エピソードをもとに記入してください**		最も成長したことは「自分の考えや感じていることをしっかり言葉で伝えること」。 なんでも１人で解決しようとするタイプで、留学初期は悩みや不安も多かったため研究室でよく考え事をしていた。それに気づいた周りのみんながいつも声をかけてくれ答えると、「何で早く言ってくれなかったの」「遠慮は禁止」と怒られた。悩みや不安はみんなが助けてくれすぐに解決・解消できた。それから、自分のことを話すようになるとみんなも色んなことを話してくれてお互いのことをより深く知ることができ、一気に距離が縮まった。また、研究に関して疑問がある時、自分で調べて解決する能力も必要だが、メンバー同士で疑問をシェアすることで解決が速かったり、新しい発見があって興味深い考察が始まったり、新しい実験計画が生まれることもあった。 思ったことを言葉にするだけで環境が大きく変化することもあることを学んだ。
あなたにとっての留学の価値 **※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください**		・これまでの自分を見つめ直す機会となる ・新しい自分に出会える ・自分にない価値観や世界を知ることができる ・いろいろなものの見方を学べる ・様々な国の人たちと出会える ・異文化に触れられる

●留学機運醸成に向けた活動

エヴァンジェリスト活動企画 **※事前課題P○と研修で検討した内容をもとに記載してください**	カテゴリ	イベント（地域）
	活動タイトル (30字以内)	出張グローバグカフェ！
	対象者・人数	中・高生、大学生
	実施場所	県内の高校
	実施時期	9~10月
	内容	宮崎大学に来ている留学生の方々と県内の高校を訪問し、宮崎大学で開催される「グローバルカフェ」の出張版を行いたい。まずは留学生の方々が自国についてプレゼンをしたり、私の留学生活についてプレゼンして、世界のことを知ってもらう。その後、グループに分かれてトークしたりゲームを用意してみんなで取り組んで交流を深めてもらう。海外との接点がほとんどないであろう中・高生や大学生にまずは海外の人と交流することで海外を身近に感じてほしい。
	達成目標	・外国に興味を持ってもらう ・トビタテのパンフレットを全員に配布
	実施に向けたアクションプラン	①開催できる高校を探す（トビタテ高校生コースに応募した生徒が在学する高校、トビタテメンバーの母校など）、この際、高校の先生方に趣旨の説明とトビタテの宣伝をする。 ②参加してくれる留学生を探す。 ③プレゼン内容やゲームの企画を考える。 ④備品の準備